

(別添3)

【河内町】 校務DX計画

【現状】

河内町では、令和3年からペーパーレス化に取り組んでおり、校務支援システムを導入した。

GIGA第1期から成績表や体力テストの集計および健康診断結果を校務支援システムへ入力しデジタル化することで不必要な手入力作業の一掃に取り組み、一定の成果は出てきている。しかし、「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、クラウドツールの活用、FAX・押印の見直しが一部で進んでおらず、校務の効率化・完全なペーパーレス化へは課題が残っている状況である。

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題】

(1) クラウドツールの未活用

河内町では、「Microsoft365」等のクラウドツールを活用した学習等や児童生徒の欠席・遅刻等に関する保護者とのやりとり、学校からのお便り等、学校と保護者を結ぶクラウドツールの活用が少しずつ進んでいるが、地域住民への学校だよりの回覧、学校内での会議等での活用が進んでおらず、電話対応や書類の印刷・配布など教職員の負担となっている。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXでのやり取りについては、現状として一部で残っている状態である。教職員が学校へ提出する事務手続きはクラウド化されておらず、書類での提出となっている。また、責任者による押印等が必要であり、“押印待ち”といった無駄な時間が発生している状況である。

【取組方針】

現状と課題から河内町では、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) クラウドツールの整備・活用

会議で用いる資料等はWeb会議ツールなどの資料共有機能を利用することを推奨し、印刷等の負担軽減を図ると共に、ペーパーレス化を推進していく。一部で外部とのやり取りの中で不必要な手入力作業等が発生しているため、関係者と協議の上で改善を図っていく。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

FAXの廃止に向けて検討を進めていく。押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、押印の文化をなくしていく。県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。